

# なにも引かない

## 2月の懇談会に代えて

残すところひと月余りとなりました。

例年なら、保護者の皆さんとホールで一堂に会す時期ですが…今年は紙面にて失礼をします。

既に記憶の彼方のことようにも感じますが、実は春の頃、新型コロナウイルスの第4波がありました。メダルラッシュに沸いたあの夏に第5波、そして、カーリング女子日本代表「ロコ・ソラーレ」が決勝進出を決めた今、第6波の最中にあります。

やはり今年も、新型コロナウイルスの対応に追われたという思いが、拭いきれないのも正直なところですが、大人はそうであっても、子どもたちの毎日は変えない…そこにこだわって過ごして参りました。

そして今年度、こども園へと生まれ変わった新生せいび。電話口で「こども園せいびです」と名乗ることに、ようやく慣れてきたところですが、保育の内容という意味では、この点でも、今までと何も変わらない日々を過ごしてきたつもりです。なので、こども園1年目を終えようとしていることへの特別な感慨も、実はあまりないのです。

さて、マスクで半ば顔覆うような生活に加え、残念ながら、参観が伴う行事など、園のみんなで集まる機会はなかなか実現できず、実は、コロナ禍に入った2年前以降に入園された保護者の方々のお顔全体を、拝見したことがありません。なので、これは私の苦手な部分でもあるのですが、目だけでは全くお顔が記憶に残らないのです（園の外でお会いした際には、きっと失礼をするかと思います。）。

私にはこのことも、ものすごいフラストレーションとなっているのですが、子どもたちはどうなのだろうか、コロナ禍以降に誕生した子どもたちは、家族以外の人間の、本当の顔は知らないのではないだろうか…この後に訪れるかも知れない「育ち」の中のコロナ禍が、少し心配になっています。

園内でも、透明のマスクなどを導入するチャンスを伺っているのですが、その度に押し寄せる感染の波に揉まれ、なかなか踏み切ることができずにおります。せめてご家庭では、少し大げさなくらいな、表情豊かなコミュニケーションを、ぜひお願いしたいと思っています。

そういった心配を除けば、子どもたちの園生活、保育活動は、コロナ禍の前と何ら変わりのない、充実したものであったことには自信とその実感があります。

これはひとえに、このコロナ禍の中で持続的な開園を達成している、皆さんのお力添えがあるからなのだと、結構本気で思っております…深謝。

## 第三者評価における利用者調査結果について

今年度の秋にご協力いただきました・・・

## 来年度の保育活動について

### 運動遊び

4～5歳児の運動遊び・・・

## 造形遊び

昨年度から、造形作家の・・・

(園からの便り「ひぐらし」2月号として)

令和4年2月19日

園長 折井 誠司